琉球大学学術リポジトリ

タイ人にとっての日本語、日本人にとってのタイ語 ―グローバル化の中での外国語学習の役割―

メタデータ	言語:
	出版者: 琉球大学法文学部
	公開日: 2008-01-08
	キーワード (Ja): 日本語, タイ語, 外国語学習の役割, グローバル化
	キーワード (En):
	作成者: 鈴木, 規之, 奥間, クワンハタイ, Suzuki, Noriyuki, Okuma, Khuanhathai
	メールアドレス:
	所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/2864

タイ人にとっての日本語、日本人にとってのタイ語
－グローバル化の中での外国語学習の役割－

鈴 木 規 之
Noriyuki Suzuki
奥間クワンハタイ
Khuanhathai Okuma

Japanese Language for Thai Students, Thai Language for Japanese Students: The Role of Foreign Language Learning in the Process of Globalization

キーワード：日本語、タイ語、外国語学習の役割、グローバル化

はじめに

本研究で明らかにしようとしていることは、タイ人の日本語学習者と日本人のタイ語学習者で学習の動機や達成意欲がどのように異なっているのかということである。両者の比較から、外国語学習がグローバル化の中で果たしている役割について考察したい。

現在タイでは日本語を学ぶ若者が増えている。同時に、キャラクターグッズや、漫画、アニメ、ドラマ、映画、ゲーム、ファッションなど日本のものが増え、街では日本のキャラクターグッズを持っている若者をよく見かける。換言すれば、日本文化がタイに流入してタイの社会に影響を与え、変容させているのである。

日本がタイに与える影響は文化面だけに限らず、雇用のような経済的な面においても多大である。タイには日本企業も数多く進出して来ており、日本

語に精通した人材の需要が増えている。また日本人観光客も多くなり、日本人相手の商売も活発になってきている。これらの理由から、日本語を使いこなせる人は就職の際有利となるため、日本語を勉強するタイ人が増えているのである。

一方で、多くの日本人がタイ語を学ぶようになってきている。しかし、日本ではタイ語はそれほど重要な外国語とは言えず、価値も低い。1980年代半ばから、ニューカマーとしてのタイ人の労働者の増加やタイへの旅行者の増加によりタイ語を学ぶ人や機会は激増したが、タイ語を必要とする仕事は日本にいる限りほとんどない。

このようにタイと日本では状況が違うため、タイと日本を比較しながら、①日本人がタイ語を勉強する理由とタイ人が日本語を勉強する理由の相違を明らかにし、②グローバル化の中で外国語はどのような役割を持っているのかを分析することが本研究の目的である。

次に研究方法であるが、本研究では、タイ語を勉強している日本人と日本語を勉強しているタイ人に対して、量的調査と質的調査を行った。量的調査は全体の傾向をつかむために実施し、質的調査は対象者の考え方、価値観を明らかにするために実施した。後述するように、タイでは中等教育や日本語学校などでも日本語が教えられているが、本研究では大学を中心とした高等教育機関を対象とした。具体的には以下の通りである。

①　サンプリング

日本語を勉強しているタイ人とタイ語を勉強している日本人が対象であるが、量的調査については学生を対象した。アンケート調査を実施した大学は奈良にある天理大学と京都にある京都精華大学、タイの南部にあるソンクラー大学である。質的調査では、タイ語を学ぶ日本人については沖縄の琉球大学と名桜大学の学生およびタイ語を学んだことのある学部学生以外の人々、日本語を勉強するタイ人についてはタイにある大学（アサンプション大学、チュラロンコン大学、コンケン大学）の学生

および琉球大学と名桜大学で留学生として学ぶ人々が対象である。

② 調査の方法

量的調査については、アンケート用紙を使い、質的調査についてはインタビュー（インターネットの利用も含む）を行なった。

インタビューの方法は定型の質問を用意し、関心のあるところはインフォーマルのインタビューをつけ加えた。

③ データの分析の方法

アンケートとインタビューを実施した後、アンケートについては単純集計と一部クロス集計を用いて分析を加えた。その後、インタビューについて分析を加え、タイと日本との比較を行った。

以上が研究の目的と方法である。第１章で理論的な枠組についてまず論じた後、実証的な分析を加えたい。

第１章　理論的枠組

タイは、1950年代に始まった近代化論に基づく発展戦略の初期には、日本と同様に欧米の影響を受けたが、1960年代より主に日本の文化の影響を中心に受けた。東南アジアの他の国では欧米の影響が引き続き続いたが、タイでは「日本」が席巻していくことになる。まずは味の素であり、その後、ソニーやトヨタのような耐久消費財が流入した。最近では、日本のファッション、日本のキャラクター、日本の歌などのポップカルチャーが大量に流入している。中でもテレビ番組は、アニメの「名探偵コナン」、「一休さん」、「ドラえもん」、「ドラゴンボール」、ドラマの「おしん」、「101回目のプロポーズ」などブームとなったものも多い。タイの若者は日本のファッションを真似し、日本の文化への同化が起こっている。このような状況は、世界システム論では以下のように説明できる。

タイの経済がある程度発展し、日本への輸出（鶏肉や海産物など）も増えて、日本とタイの相互依存関係は促進されたが、世界システムの中ではまだ

不平等な関係となっている。タイの場合はたくさん日系の企業が入って来て、タイ経済に大きな影響力を持ち、文化的にも大きな影響力を持っているのである[1]。

また、世界システム論と問題意識を共有するカルチュラルスタディーズの視点からも、近代化論的な発展戦略を進めてきたタイが、グローバル化の中で世界システムの中の不平等な構造にさらに包摂され、欧米や日本の文化がタイへ流入するプロセスを論じることができる[2]。

グローバル化の時代にあって、音楽、映画、洋服、衣装、ファッション、化粧品などのポップカルチャーは生活の中で重要度を増している。その中で、人間は商品を消費するのではなく、文化を消費するのである。例えば、1980年代になってタイでもハンバーガーを食べることが習慣になった。ハンバーガーが好きだからではなく、マックドナルドというメーカーなので食べるのだ。また乗っている車もベンツやＢＭＷ、もしくは日本などの外国のメーカーだから買ったという人が多い。日本の商品もたくさんタイに輸入され、タイでは日本製の商品および日本のブランドは人気がある。タイの視点では欧米の商品より日本の商品の方が品質がいいと思われているのである。

このような流れの中で、人々の考え方やライフスタイルは大きく変化した。学生革命（1973年）の時代のタイでの日本商品不買運動のリーダーで、現在でもタイの言論界で大きな発言力を持つティーラユット・ブンミーは、グローバル化の過程と影響について、国民国家の役割は重要でなくなる一方で、文化の国境の影響は重要になったと論じている[3]。

ティーラユットの指摘をタイの文脈で考えると、グローバル化の中でタイ

---

[1] 世界システム論を応用したタイの社会変動の分析については鈴木規之『第三世界におけるもうひとつの発展理論：タイ農村の機器と再生の可能性』国際書院、1993を参照のこと。

[2] アジアにおける日本のポピュラーカルチャーの流入については岩渕功一『トランスナショナル・ジャパン－アジアをつなぐポピュラー文化』岩波書店、2001に詳しい。

[3] ธีรยุทธ บุญมี ชาตินิยมและหลังชาตินิยม, *Nationalism and Post Nationalism* สำนักพิมพ์สายธาร, 2003:126-127

のような第三世界は世界システムにより巻き込まれ、文化のヘゲモニーの影響を受け、文化同化が起こっていくプロセスにあると解釈できる。まさにジャパナイゼーションとでも言える現象が起こっているのである。以下の章で具体的に論じよう。

第2章　タイ人と日本語

1）タイでの日本語教育の歴史

タイで日本語を習っているタイ人は数万人とも言われている。そして、1998年からタイで日本語が大学入試選択科目になった。その上、現在タイは空前の日本食ブームである。バンコクのショッピングセンターであるマーブンクロンの4階などは、通路中が日本食レストランで、寿司、とんかつ定食、カツ丼、ラーメンなど、種類もたくさんある。スカイトレインの駅売店でもにぎり寿司や「あきこ」というメーカーのお菓子を販売している[4]。

1980年代には日本語はチュラロンコン大学やタマサート大学など限られた大学や高校のみで教えられた。1990年代に入ると、ほとんどの大学やバンコクを中心とする多くの高校で日本語が教えられるようになった[5]。

1985年のプラザ合意以降、日本企業はタイへの投資を大きく増やした。1997年の経済危機のため、タイに支社を出す日系企業は減少したが、日系企業での就労を希望するタイ人は多く、日本語のブームは依然として去らない状況である。

日本語履修者の就職情況であるが、日本との経済関係の緊密化により経済危機のわずかな時期を除いて日本語を専攻した者の就職は好調となっていて、新卒の月給が国立大学で15～6年勤務した教師より高い場合もあった。

タイの日本語教育は、高校にも広がっている。日本のキャラクターや、歌、

---

[4] http://www.geocities.co.jp/silkRoad-Lake/1233thai/thai-01.html

[5] タイにおける日本語教育についての略史は、松井嘉和、北村武士、ウォーラウット・チラソンバット『タイにおける日本語教育』錦正社、1999：44を参照のこと。

芸能人、アイドルや、ゲームなどが好きな高校生も多い。また、中国系の学生の中には、漢字という共通性があるため勉強したいという人もいる。日本企業で働きたい、日本に留学したい、日本への旅行がきっかけとなって日本が好きになり、日本語を勉強したいという学生もいた。日本製ゲームのファンで、ゲームの中によく日本語が出てくるのでその意味を知りたいと思い、日本語を勉強したくなったという興味深い例もある。

日本語の教育機関には、高校や大学などのほかにタイ王国元日本留学生協会附属日本語学校（ソーノーヨー）や泰日経済技術振興協会附属日本語学校（ソーソート）などの専門学校もある。タイにおける日本語教育の研究については、松井・北村、ウォーラウットによるものが代表的であるが、実態調査については国際交流基金が1998年に行っている[6]。

この調査によると、学習者数が一番多いのは大学などの高等教育機関であった。学習の目的は将来の就職のためという目的が最も多く、以下では日本語によるコミュニケーションができるようにするため、日本語という言葉そのものへの興味、日本の文化に関する知識を得るため、今の仕事で日本語を必要とするためなどであった。また、学校教育の場以外の機関で一番多いのは、今の仕事で日本語を必要とするためという目的、そして、日本に留学するため、将来の就職のため、日本との就職・交流を深めるとなっていた。学習者にとっては日本語がわかると就職でも仕事でも有利になるということが動機づけになっていた。21世紀となった現在の状況はどうであろうか。

２）タイ人へのアンケートの結果の分析

①　単純集計の結果

2001年に、タイにあるソンクラー大学日本語学科の学生にアンケート調査を行った。回収できたのは60部（男性13人、女性36人、不明11人）で、その

---

[6] http://www.jpf.co.jp/j/urawa/kunibetsu/1999/thailand.html
世界の日本語教育、日本語教育国別情報The Japan Foundation Japanes-Language Institute, Urawa

うち有効票は59部であった。まず、単純集計の結果から論じよう。

ｉ）日本語を勉強する理由は「日本のことに興味がある」が69.5％「就職しやすい」が10.2％で、「日本に旅行するため」3.4％、その他は16.9％となっている。

ii）卒業してから、どんな仕事をやりたいかについては、ホテルのマネージメント28.8％、旅行会社18.6％、ホテルマン10.2％、ガイド8.5％、レストラン6.8、ゴルフ場5.1％、日系企業1.7％と答えたように、日本人相手の仕事をしたいことがわかる。日本人と関係がある仕事、例えば、ホテルや、旅行会社、ガイドや、レストランなどで働きたい人が増えている。仕事で日本人と接するために、日本語を勉強するという傾向がみてとれる。

iii）日本で働きたいと答えた人は86.4％、日本で働きたくないと答えた人は11.9％で、日本で働きたいと考えている人が圧倒的に多い。タイで働くより日本で働く方が給料は高い。ボーナスもある。また日本で働けば、日本式の働き方や日本人と一緒の働き方、コミュニケーションなども経験できるからであろう。

iv）日本のイメージは「技術の程度が高い」が77.6％、「物価が高い」8.6％、「豊かである」6.9％、「独自の文化や経済を持った国」1.7％であり、技術に対するイメージが圧倒的である。タイにはたくさんの日本製品、例えば、日本製の車、電気製品、機械などが入ってきている。先進国の日本は、タイ人から見ると科学が発達していて、技術の程度が高いと思われていることがわかる。

ｖ）日本人の良い面は何か。「働くのが好き」は38.6％、「まじめ」26.3％、「友好的である」10.5％、「優しい」8.8％、「頭がいい」7.0％、「正直である」3.5％、などとなった。上位に入った「働くのが好き」も「まじめ」もタイ語では同様に「カヤン」といわれ、日本人の一般的なイメージとなっている。タイ人は表面的には日本人がまじめ、働き者、優しい、頭がいいと思っている人が多い。

vi）日本人の悪い面としては、保守主義者31.5％、忙しい24.1％、その他14.8％、つめたい7.4％、タバコを吸ったり、お酒を飲んだりする7.4％、なし5.6％、あいまい5.6％、信仰心が浅い1.9％、友好的でない1.9％、となった。日本人がいい人だと思っているタイ人が多いが、日本人の悪い面についてもよく知られている。日本人と働いている人は、日本人が考えていることと言うことが違うと感じることが多い。日本人の考え方がわかりにくいという人もいる。

vii）日本はタイにとって大切だと思っている人は62.7％、とても大切だと思う人は23.7％、普通13.6％となり、不平等な関係であるとの批判もあるが日タイ関係は大切だとの認識がうかがえる。タイの経済危機の時に、日本の政府からのサポートを受けていることがかなり知られているのであろう。

viii）タイ製と日本製の商品を比べて、タイ製を選ぶ人は70.7％、日本製の商品を選ぶ人は29.3％であった。このような数字になった理由としては、この調査を行ったのがバンコクではなく、日本製商品が比較的少ない南部の都市ソンクラーであること、日本製の商品が高いことの二つが考えられる。

ix）日本人の友達がいる人は51.7％、いない人は48.3％。日本人の友達がいる人場合はタイにいる日本人は44.8％、メール友達は37.9％、その他は10.3％手紙で友達は 6.9％となった。例えば、タイに留学しに行っている日本人、タイに旅行に行っている日本人、チャットホームページで知り合った日本人などと友達になっている。

x）日本からタイに何が影響を与えていると思うかについてはファッション54.2％、技術20.3％、映画16.9％、文化（料理、など）5.1％、経済1.7％、日常生活1.7％と答えた。若い人が調査対象であったため、このような結果となったのであろう。調査対象は女性が多く、彼女たちの興味はほとんどファッション中心である。一方、男性は技術関係に興味があり、例えば、技術の進んだ日本のゲーム、日本の技術関係の商品などである。

xi）日本のもので何が欲しいかについては、着物22.4％、電気製品は17.2％、

コンピュータは13.8%、車は10.3%、洋服は5.2%、お菓子5.2%、化粧品5.2%、日本のキャラクター3.4%、ゲーム1.7%、CD1.7%と答えている。調査対象者には女子学生が多かったため「着物」が第1位になったと思われる。

xii）卒業してから、ひきつづき日本語を勉強する人は88.1%、勉強しない人は11.9%であった。卒業のあとまだ日本語を勉強する人は、第4章で考察する本気で日本語を勉強する人と考えられる。彼らの多くは日系企業で働きたい、日本に留学しに行きたいと考えている。

xiii）日本語は仕事に重要だと思う人は100%であった。日系企業で働きたい、日本で働きたい、日本人と接する仕事をしたいため、日本語は仕事にとって重要だと思われている。

以上のことをまとめると、日本語を勉強する理由で一番多いのは日本に興味があるということである。今日、日本の文化はタイの文化の影響を与えて、タイ人が日本の文化の影響を受けている。調査によると、ファッション、技術、漫画などである。日系企業がたくさんタイに入ってきているので、日系企業で働きたい人は増え、日本で働きたい人も増えてきているのである。

② クロス集計の結果

まず、性別（ジェンダー）による違いであるが、日本語を勉強する人は、女性が男性よりもはるかに多い。これは、タイのほとんどの大学がそうである。日本語を勉強する理由は、男女とも「日本のことに興味がある」が多くなっており、その傾向は男性のほうが強い。また、日本で働きたいのは男性より女性の方が多い。日本からの影響については、女性はファッション、男性は技術が多くなっている。（表1，2，3参照）

表１　性別×日本語を勉強する理由

		日本語を勉強する理由				合　計
		就職しやすい	日本に興味があるから	日本に旅行するため	その他	
性別	男　度数 性別の％	0 0.0％	13 100.0％	0 0.0％	0 0.0％	13 100.0％
	女　度数 性別の％	5 13.9％	20 55.6％	2 5.6％	9 25.0％	36 100.0％
合計	度数 ％	5 10.2％	33 67.3％	2 4.1％	9 18.4％	49 100.0％

表２　性別×日本で働きたいか

		日本で働きたいか		合　計
		日本で働きたい	日本で働きたくない	
性別	男　度数 性別の％	11 84.6％	2 15.4％	13 100.0％
	女　度数 性別の％	32 88.9％	4 11.1％	36 100.0％
合計	度数 ％	43 87.8％	6 12.2％	49 100.0％

表３　性別×日本からタイへどのような影響があると思うか

		日本からタイへどのような影響があると思うか						合　計
		文　化（料理など）	ファッション	経　済	技　術	日常生活	漫　画	
性別	男　度数 性別の％	0 0.0％	5 38.5％	0 0.0％	4 30.8％	1 7.7％	3 23.1％	13 100.0％
	女　度数 性別の％	3 8.3％	20 55.6％	1 2.8％	6 16.7％	0 0.0％	6 16.7％	36 100.0％
合計	度数 ％	3 6.1％	25 51.0％	1 2.0％	10 20.4％	1 2.0％	9 18.4％	49 100.0％

3）タイ人へのインタビュー調査の結果と分析

龍谷大学、大学院２年次、Ｍさん

「アサンプション大学を卒業した。高校から日本語を勉強した。また大学に入ってから、日本語の専攻を選んだ。卒業してから、京都に留学している。１年間龍谷大学の日本語別科で勉強した。卒業後、大学院に入った。日本語を勉強する理由は、日系会社で働きたく、日本の文化が好きで、日本人の友達ができたからである。卒業してから、日本の貿易会社で働きたい。できれば、日本で働きたい。だが、日本に定住したいと思わない。」

タイの日系企業で総務、秘書、通訳を行うＮさん

「アサンプション大学を卒業してから、就職活動をして日本の会社に入ったため、毎日日本語を使っている。日本語を勉強するきっかけは、子どものとき、よくアニメ見てたし、将来は仕事に役に立つと思うので、日本語を勉強しようとした。また、日本語がわかったら、有利だった。高校のときから、日本語を勉強した。また、大学に入ってから日本語の専攻を選んだ。日本語学校で日本語を勉強した。もし機会があったら、日本で働きたいし住みたいと思う。」

チュラロンコン大学文学部日本語学科、４年次、Ｏさん

「今沖縄に留学している。そしてタイへ帰ってから、あと半年勉強する。卒業してから、日本語を使う仕事をしたい。例えば、日系企業、通訳・翻訳などである。チャンスがあったら、日本で働きたい。日本語を勉強するきっかけは、高校のとき、何でも日本のものだったからだ。電気製品、スポーツ商品、などである。日本語に興味があった。日本語を勉強することになった。日本で働きたいけど、定住することはしないだろう。」

コーンケーン大学人文社会科学部英語学専攻、４年次、Ｔさん

「コーンケーン大学では日本語は副専攻（日本語専攻はない）で、英語と両方勉強している。今は琉球大学に留学して日本語や日本社会について学んでいる。日本語を学んでいるので、どうしても日本で勉強したかった。日本語ができると、英語だけより就職はとても有利。日系の企業が有利な条件で採用してくれる。卒業したら、是非日本語と英語の両方を使える企業で仕事がしたい。」

コーンケーン大学人文社会科学部社会開発専攻、４年次、Ｋさん

「子供のころから日本のアニメをみていたので日本語の授業をとってみたかった。希望者が多かったが何とか学べた。１年間勉強したが、日本語は難しかった。専門は社会開発なので日本語の勉強はもういいと思っている。」

バンコクに住む女性、Ｃさん

「バンコクのナイトクラブにつとめている。日本人のお客さんが多いので、３ヶ月間専門学校で勉強した。あいさつくらいしかできないが、難しいのでもう学ぶつもりはない。」

このように、タイ人へのインタビューの結果からも、ジャパナイゼーションの進行による日本語への関心と目的としての就職がはっきりとわかるのである。

４）タイにおけるジャパナイゼーションの進行

大学生に一番身近な耐久消費財であるバイク、自動車、オーディオ・ビデオ機器など、目立つものや高額商品など、派手なイメージをともなうものは日本製のものが多い。

富岡悠時によれば、1991年における日本車のシェアは96％である。乗用車部門はトヨタ（トヨタ自動車）が35％、日産が20％、ホンダが16％、三菱

（三菱自動車工業）が11％、マツダが２％、日本車全体で83％を占める。タイに進出した最初の日系デパートは大丸だったが、知名度では後発の東急（東急百貨店）が勝っている。東急は若者が集まる総合ショッピングビルであるマーブンクロンセンターに出店していることが強みになっている。タイで化粧品を使用する女性は1200万人といわれている。このうち高級品の資生堂を買える層は一部のキャリアウーマンまたは女子大生だけで、総数は数万人である。[7]

1980年代後半頃から新聞や雑誌などで東・東南アジア、とりわけ香港や台湾、タイを中心にして、日本の大衆文化、漫画やアニメーション、テレビドラマなどが人気を博していると言われるようになった。五十嵐暁郎は、カルチュラル・スタディーズの視点から以下のように論じている。[8]

> かつて70年代前半において、タイ社会における「メイド・イン・ジャパン」、つまり日本商品の氾濫は、学生が先頭に立った反日運動を燃え上がらせた。たしかに現在、東アジアの諸地域においては、日本の商品や企業の進出と平行して日本のポピュラーカルチャーが社会のすみずみまで浸透し、人々に歓迎されている。人々は日本で「発明」され幅広い人気を誇っているカラオケで日本の歌、あるいは現地の歌詞に置き換えられて自分たちの社会の歌であると思われている日本のメロディーを歌っている。日本のテレビドラマ、特にアジアきっての大都会である東京を舞台にした「東京ラブストーリー」や「101回目のプロポーズ」などのトレンディー・ドラマも、この地域のテレビ会社に買われて放映され、若者たちの間で人気がある。チャゲ＆飛鳥、谷村新司、光ＧＥＮＪＩ、山口百恵、最近では安室奈美江といった日本の歌手やタレントたちは東アジアで国際的な人気を

---

[7] 富岡悠時、『タイのライフスタイル』サイマル出版社、1994：190
[8] 五十嵐暁郎『変容するアジアと日本アジア社会に浸透する日本のポピュラーカルチャー』世織書房、1998：４

確立している。タイの街角では、そうした日本人タレントを紹介する専門誌まで売られている。ファッションの世界でも、日本は注目されている。焼き鳥や寿司などの日本料理は、すっかりこの地域の都会生活の中に溶け込んでいる。子どもたちは「ドラえもん」や「ドラゴンボールＺ」（単行本はアジア、ヨーロッパの一〇カ国でこれまで五千万部売れた）「スラムダンク」「美少女戦士セーラームーン」などの漫画をむさぼるように読み（日本での発行部数が六百万部の「ジャンプ」の作品は香港、タイなどで翻訳され、地元の作家による作品とともに掲載されている）またそれらのテレビアニメ番組の前に釘付けになっている。彼らは日本の漫画からいったい何を読み取っているのだろう。漫画の主人公や「キティ」「ケロケロッピー」などのキャラクターも含めて、今日本の大衆文化は東アジアにブームを引き起こしている。

タイのチュラロンコーン大学のスリチャイ・ワンゲーオは、タイ人の少女が自分は日本大使の娘であるといって世間を騒がせた「ユウコ事件」にふれ、その背景として、84年に「おしん」が大ブームになったこと、その前は、トウキュウや、ソゴウ、ジャスコといった日本のデパートやスーパーマーケットが進出し、仮面ライダー、ゴレンジャーといった子供向けのテレビドラマもヒットしたことをあげている。この事件は1986年に起こったが、今はもっと日本の大衆文化がタイへ入っていること、日本に対する関心は増加してきて、語学としても英語以外では特に日本語に人気があることを論じている。[9]

このようなジャパナイゼーションの進行については、タイの若い研究者の関心も引き寄せ、例えばウィパーラットは[10]、タイの若者と外国からの文化の影響（日本の音楽）について研究し、今日の若者は文化を消費して暮らし

---

[9] 前掲書：26-28

[10] วิภารัตน์ พันธ์ฤทธิ์ดำ, *อิทธิพลของวัฒนธรรมต่างประเทศที่มีต่ออัตลักษณ์ของวัยรุ่นไทย : ศึกษาเฉพาะกรณีคนดรีอู่ปุ่น*.วิทยานิพนธ์ระดับมหาบัณฑิต สาขาสังคมวิทยา คณะรัฐศาสตร์ จุฬาลงกรณ์มหาวิทยาลัย, 2544

ており、外国からの文化の影響を強く受けていること、また他の年齢層より若者の方が外国の文化の影響を受けやすいことを強調している。例えば、外国製の商品を使ったり、外国資本のデパートに行ったり、外国の料理（ファストフードも含む）を食べたり、外国の映画を見たり、歌を聞いたりするなどである。昔は若者が欧米の文化に真似をしたが、最近では日本の文化を真似する傾向が見られる。例えば、ファッション、歌、映画、ドラマ、日本料理などである。彼女のインタビュー調査によれば、日本の歌に興味がある人は日本語を勉強したいという傾向がある。好きな歌の意味を知りたい、将来に役に立つ、日本人はどういう生活しているかを知りたい、日本で住んでみたいなど様々な理由で日本語を勉強したいとインタビューを受けた若者は答えている。そのような若者は好きな歌手のファッションの真似をしたり、写真やポスターやその歌手に関係するものを集めたりしている。このように、日本の文化はタイの若者に一番影響を与えているとウィパーラットは論じているのである。

本研究の調査結果からも、日本語を学ぶ学生に、日本や日系企業で働きたいタイの大学生がかなり多いことが明らかになった。過去に何度も摩擦はあったが、日本はここまでタイ文化の中に溶け込んでいたのだ。ティーラユット・ブンミーの時代（学生革命時）には日本に批判的だった学生が、とうとう日本を認めたのである。

かつて、タイの学生たちは「日系の会社に就職したが、入社後数年で、出世する希望がないことがわかって退職しました。どんなに努力しても日系企業ではトップになれない。」などの理由で日系企業を批判していた。しかし、チュラーロンコーン大学の学生が「出世が望めないことは欠点ですが、日本企業の給料はタイの会社より二割は高いし、職場環境も整っています。それに日本の会社で働く事は外聞もいい」と興味を示し、また別のチュラロンコーン大学の学生も「日本の企業は年に１～２回きちんとボーナスが出ます。従業員のための保険制度も充実しています。一定規模以上の会社を選べば、待

遇面の当たりはずれが少ないことが長所です。私は日本の企業に就職したいと思っています」と答えて同調している。このように、ジャパナイゼーションの流れの中でタイ人の学生の意識は大きく変わってきたのである。

第３章　タイ語と日本人

１）日本でのタイ語教育の歴史

日本でのタイ語教育は第二次世界大戦後本格化した。東京と大阪の２つの外国語大学でまずタイ語のコースが始まった。

1980年代から多くの大学、特に東京や大阪の周辺の大学に地域研究や国際学に関する新しい学部や研究科が設立された。それらの多くは、タイについても扱い、タイ語の教育も行なわれたところが多い。

国際化、グローバル化の時代となった1980年以降、タイへ旅行する若者も増え、一方で日本の中でもタイ料理店やタイ人労働者が目立つようになった。それに呼応してタイに対する関心が高まり、タイ語を勉強する人は急増した。多くの大学でタイ語のコースや科目が設置された。第２外国語として学べる大学も増えた。このように日本では1980年代にはタイ語を勉強する機会が増え、1990年代にはさらにその機会が拡大していったのである。[11]

タイに対する関心は高まっていったが、タイにおけるジャパナイゼーションとは異なり、興味をもつ人々が若者を中心に増えたにすぎなかったといってもよい。文化的には、タイの歌や映画が時おり紹介される程度で、おかまのバレーボール映画として人気を博した「アタックナンバーハーフ」もキワモノとしての扱いであった。

２）日本人へのアンケート調査の結果と分析

①　単純集計の結果

以下は、タイ語を勉強している日本人へのアンケート調査の結果である。

---

[11] Kitahara, Atsusi, Akagi, Osamu (eds.), *State of Thai Studies In Japan*, The Thai Seminar of Japan 1996:1

このアンケートは奈良にある天理大学と京都にある京都精華大学の学生に対して実施した。回収票は80部で、有効票は70部であった。男性は20人、女性は50人であった。

ｉ）タイ語を勉強する理由は、「タイに興味があるから」が42.9％となった。次は「タイに留学するため」24.3％となっている。また、「タイ語が面白そう」は12.9％である。「タイに観光旅行するため」と答えは8.6％である。一番少ないのは「就職するため」で1.4％である。何よりの特徴は「興味」である。旅行に行って直接タイ文化にふれた人も多いことだろう。また、タイの文字がおもしろそうで、タイ語を勉強するという人もいる。他の理由では成績を上げるためや時間割の都合で選択科目としてタイ語を選んだ、タイ人の彼女／彼氏がいる、タイ人の友達がいるなどもあった。一方、このデータでは、タイ人にとっての日本語は就職、仕事と大きく関係するのに対して日本人にとってのタイ語は就職と関係があまりないということが明らかになった。

ⅱ）これからタイ語の勉強を続けたいと思う人は92.9％である。タイ語の勉強を続けたくない人は7.1％である。真剣にタイ語を勉強する人には、またタイ語の勉強を続けたい人が多かった。タイに対して本当に興味を持ち、タイ語が話せるようになりたいなどの理由でタイ語を本気で勉強し続ける。あまり本気ではなくタイ語を勉強する人の場合は、タイ語の勉強を続けない。（「本気」については第４章で詳述する。）

ⅲ）日本人にとってタイ語は就職の際にはまだ価値が低い。タイ語ができるだけでは就職はほぼ見つからない。しかし、タイのことに興味がある人は、タイ語の勉強を続けたいと答えている。しかし、タイで仕事したいと思っている人は少なく、わずか27.1％であった。一方、タイで仕事したいと思わない人は72.9％ある。タイで働きたくても、タイの企業の給料は少ないので現実には難しい。日本円の方が強いので、タイで働くと日本では余裕のある生活を送れるだけの収入になるかが心配だという人もいる。

ⅳ）卒業してからの仕事への希望については、会社員は20.3%、公務員は5.8%、ビジネスマンは 15.9%、自営業は1.4%、教員は4.3%である。タイ語にかかわる仕事は少ない。

ⅴ）タイ語を勉強することが、仕事に有利になると思う人は37.1%であり、そうではない人は62.9%である。日本人としてはタイ語を勉強することは仕事に有利にならないと思っている。前問とも関わるが、日本人がやりたい仕事はタイ語に関わる仕事が少ないので、タイ語はあまり仕事に有利になると思っている人は少ない。仕事に有利になると思っている人の場合は通訳・翻訳の仕事を考えており、またタイ人に日本語を教える仕事したい人たちはタイ語が少しわかると有利になると思っている。また、タイ語が就職に有利になると答えているのは38.6%になり、有利にならないと答えているのは61.4%である。

ⅵ）タイのイメージについては、「人々が優しい」は40%になり、「物価が低い」は35.7%である。「危ない」は5.7%である。現実にタイは人々の優しさや微笑をキャッチフレーズとしている。物価については、もちろんタイのほうがはるかに安い。タイ人は外国人や観光客に接するのが好きで、優しく面倒を見てあげる「サヤム・ムアン・ジム（微笑の国タイ）」だ。また最近日本にタイの雑貨や食文化も少し入ってきているので、タイに行ってみたいと思っている人も増えている。日本人にとってはタイは観光地である。

ⅶ）タイ人についての良いイメージとしては、「タイ人が優しい」は47.1%になり、「信仰心が高い」は30%、「フレンドリー」は15.7%である。「礼儀正しい」2.9%である。

ⅷ）悪いイメージとしては、「なし」が61.4%を占める。「お酒、タバコが好き」は14.3%、「ルールを守らない」は12.9%、「礼儀が悪い」は7.1%である。タイ人はまだあまりルールを守らないと思われている。またタイ語がわからない外国人観光客をだましたりしている人もおり、そのことが悪いイメージにつながっている。

ix）タイ人の友達がいる人は40％である。タイに留学したときやタイに旅行に行ったときにタイで知り合った、日本に留学に来ているタイ人と知り合った、ウェブボード「タイ日提示版」でチャットして友達となったという例などもある。

x）タイに行ったことがある人は41.4％であり、行ったことがない人は58.6％である。タイは日本人にとっての観光地であり、また留学したことがある人もいる。大学での実習や仕事でタイに行った人もいる。5

xi）日本がタイから受ける影響について、一番はやはり「タイ料理」68.6％であり、タイの商品は12.9％である。ファッションは4.3％、キックボクシング4.3％、音楽4.3％、おかま（ニューハーフ）文化4.3％、映画1.4％あった。

xii）タイの物で欲しいものがある人は87.1％である。欲しい物がある人を100％として計算すると、料理の材料が欲しい人は24.6％タイシルク11.5％、タイの洋服 10％、アクセサリ 10％、焼き物 10％、などである。さらに食品は 10％、お菓子 8.6％、タイハーブ7.1％、タイ人形2.9％、かばん1.4％である。

xiii）日本にとってタイという国は大切だと思うかについては、とても大切だと思う人は14.3％、大切だと思う人は45.7％、まあまあと思う人は27.1％、あまり大切だと思わない人は10％、全く大切だと思わない人は2.9％である。タイと日本は経済的関係はつよく、また、タイに旅行する日本人も増えている。日本とタイの関係は21世紀にはもっと親密になり、タイなども日本のパートナーとしてやっていく時代が必ずくるであろう。

単純集計の結果からわかるのは、日本人がタイ旅行やタイ料理を食べたことなどをきっかけとした興味が、タイ語を勉強する動機となっているということである。タイ人の側の理由と異なり、就職とは全く関係がない。

② クロス集計の結果

性別（ジェンダー）とタイ語の関係を調べると、まずタイと同じでタイ語

を勉強する人は女性が多くなっている。タイ語を勉強する理由では、男性では、タイに興味がある、タイに留学するため、タイ語がおもしろそうだから、タイに観光旅行するため、の順になり、女性は、タイに興味があるから、タイに留学するため、タイ語がおもしろそうだから、タイに観光旅行するため、就職のため、の順になった。この数字から、男性はタイへの興味で、女性は興味とともに留学のために学ぶという傾向が見られる。

タイ語の勉強の継続性や、タイ語は就職に有利になるという考えについては、男女差はあまりない。(表４，５，６参照)

表４　性別×なぜタイ語を勉強する

		なぜタイ語を勉強するか						合　計
		就職のため	タイに興味があるから	タイ語が面白そうだから	タイに留学するため	タイへの観光旅行のため	その他	
性別	男　度数 性別の％	0 0.0%	9 45.0%	2 10.0%	3 15.0%	2 10.0%	4 20.0%	20 100.0%
	女　度数 性別の％	1 2.0%	21 42.0%	7 14.0%	14 28.0%	5 10.0%	2 4.0%	50 100.0%
合計	度数 ％	1 1.4%	30 42.9%	9 12.9%	17 24.3%	7 10.0%	6 8.6%	70 100.0%

表５　性別×タイ語の勉強を続けたいか

		タイ語の勉強を続けたいか		合　計
		は　い	いいえ	
性別	男　度数 性別の％	17 85.0%	3 15.0%	20 100.0%
	女　度数 性別の％	48 96.0%	2 4.0%	50 100.0%
合計	度数 ％	65 92.9%	5 7.1%	70 100.0%

表6　性別×タイ語能力は就職に有利か

		タイ語力は就職に有利か		合　計
		は　い	いいえ	
性別	男　度数 性別の%	7 35.0%	13 65.0%	20 100.0%
	女　度数 性別の%	20 40.0%	30 60.0%	50 100.0%
合計	度数 %	27 38.6%	43 61.4%	70 100.0%

3）日本人へのインタビュー調査の結果と分析

インタビュー調査は、沖縄にある琉球大学と名桜大学の学生および卒業生、沖縄で働いていてタイ語を勉強したことのある人へインタビューを行った。

琉球大学法文学部人間科学科地理学専攻、Aさん

「タイ語を2年で勉強した。タイに1年間留学したことがあった。留学したとき、タイ人と一緒に授業を受けたので、先生が言っていることがほとんどわからなかった。タイ語の発音、声調はとても難しいが、聞いてとてもきれいな音だし、しゃべるのも楽しいし、字もおもしろいし、それに勉強して飽きない。タイ語を勉強するきっかけはタイに旅行に行って、そのとき、タイの人はそんなに英語は上手じゃないし、自分も英語上手くなかったので、タイ語ができたほうがいろいろな人としゃべれるなあと思って、またタイに行きたいと思って、タイ語を勉強することになった。できれば研究者になって、タイ語を行かせればと思っている。日本とアジアの関係は21世紀にはやはりもっと親密になっていくだろう、タイなども発展して、様々な経済葛藤とかで、日本も、そのパートナーとしてやっていく時代がくるので、絶対にタイ語、アジアの言語は必要になり、大事になってくると思う。」

琉球大学法文学部２年生、Ｂさん

「タイ語を勉強するようになったきっかけは、文字がかわいくて、独特の文化に惹かれた。また、近年世界中で英語が多く話され、英語がしゃべるのは常識になりつつある。そこで英語以外の外国語を学ぼうと思ったのだが、同じアジアということ、そしてまだ学んでいる人が少ないことから、タイ語を選んだ。タイ語の文字は難しいと思うがタイの文字はタイ語のために独自に作られたものなので、とてもうらやましく思う。タイ語を学んでからタイに遊びに行ったことがある。

タイで働きたいが、給料が日本よりまだ低いので、悩んでいる。もしタイで働けたら、タイで生活できたらいいと思うが、日本にお金を送るのが難しいと思う。短期で働くのなら、大丈夫だと思う。」

名桜大学国際学部４年生、Ｃさん

「タイにあるチェンマイ大学という大学に留学したことがある。タイに留学したことがあるので、留学生の気持ちと問題がわかる。タイのことがとても好きだ。タイで働きたいが、タイの企業では給料が安いので働きなくない。若い頃からタイに行きたかったし、タイの文字もおもしろいし、近くのアジアの言葉を覚えたかったので、タイ語を勉強した。」

名護市役所勤務、Ｄさん

「名護市役所の学部市長室町おこし係という部署にいて、国際交流を担当している。仕事でタイ語を使う機会もある。一度、本部の海洋博でやっている国際洋ラン会という会で、タイ人の先生が来ていたので、その時、通訳で入った。あとその他にも何回かタイ人のほうが来て、その通訳をしたことがある。２年間タイに留学した。タイで働きたいと思ったが、今はまず沖縄のことをやってからというふうに考えている。なぜなら、タイで働く事で、日本での知識など生かしていきたいが、私自身の考えではまだ知識がまだ足り

ないからだ。いずれ知識経験まだ足りないので、タイで働けたらいいなあと思う。」

コンピュータ会社勤務、Ｅさん

「２年間タイに留学した。タイに行ってから、タイ語が好きになって、本気でタイ語を勉強しようと思った。最初はタイ語が難しいと思った。タイ語はいろいろ難しいところがある。例えば昔の言葉や、古い言葉、文学などである。またタイの文字も興味があったからである。もし機会があったら、タイに住みたいと思う。タイの社会を知りたいし、タイの会社で働きたい。でも難しい。」

名桜大学国際文化学科４年次、Ｆさん

「バンコクにある語学学校で１ヶ月、チェンマイ大学で８ヶ月日本語を勉強した。タイ文字はすごくおもしろかったので、読めるようになりたくて、また、旅行にも行きたかったので、タイ語を勉強している。タイに住みたいと思う。」

琉球大学理学部学生、Ｇさん

「大学の外国語の授業でタイ語を勉強した。勉強の理由はアジアの言葉で、朝鮮語、中国語もあったが、日本との歴史的な関わりから見て、中国や韓国に対してあまりいい感情を持っていない。それで、タイ語勉強した。最初はタイ語が難しく、声調が難しいと思った。まだタイに行ったことはないが、ぜひ行ってみたいと思う。」

琉球大学理学部海洋自然学科２年次、Ｉさん

「大学で初めてタイ語を勉強した。もともとアジアの言葉を勉強したかった。それで、カリキュラムにタイ語があり、時間割的にも合ったのでやって

みようとした。それで、最初の日に教室に行ってみると、先生もおもしろそうだし、いろいろなことを紹介くれて、おもしろかった。タイの文化を知りたかった。しかしタイで働きたくない。日本にいてタイと交流を持つような仕事ができたらいいなあと思う。去年一回タイに旅行で行った。タイの人はとてもいい人で、暖かい感じだった。タイは住みやすいと思う。」

琉球大学法文学部人間科学科社会学専攻４年次、Ｋさん

「以前タイ料理店でアルバイトしていた時、少しタイ語を使った。タイ語を琉球大学で少し勉強し、タイ留学してから更に勉強した。タイ語の発音と声調は難しいと思う。タイに行ってから友達と話できるようになった。でも９ヶ月たった今もまだ完璧じゃない。どれぐらいタイ語ができるって聞いたら、日常生活では困らないぐらい。英語と中国語を勉強したことがある。その外国語とタイ語と比べたら、タイ語の方が文字がかわいい。それと、タイ語は歌を歌っているみたいで好き。タイ語を勉強するきっかけは高校生のときから東南アジアに興味があったから、その言葉を勉強してみたかった。大学で授業があったし。将来は中学校の社会科の先生になりたいので、タイに留学したことは役に立つと思うが、タイ語はほとんど役に立たない。たぶん忘れてしまうだろう。」

名桜大学国際学部４年次、Ｌさん

「１回タイに留学した後、また去年１年間タイに留学してきた。タイで働きたいが、将来は日本に帰りたい。タイ語を勉強するきっかけは、タイ語の文字は独特で、タイ語を使える人は少なく、タイ文字がかっこいいからである。タイ語は難しいと思う。タイ語の発音、文章（書き言葉）が難しい。タイ語を日本の大学とバンコクの語学学校で勉強した。

タイで働いている日本人はタイ語が必要である。タイ人が日本で働くとしたら英語より日本語ができたほうがいいに決まっている。ただし将来他の国

にも行ってみたいという人は英語のほうが汎用性があっていいかもしれない。どちらもできないという人は、仕事がないことはないが非常に難しい。したがって半年くらいタイで言葉の勉強をしてから就職したほうが見つかりやすいと思う。」

インタビュー結果を通しての考察は以下の通りである。タイ語を勉強する日本人については、タイに旅行に行ってタイの文化やタイの人々が好きになりタイ語を勉強することにした人もいる。タイの文字が面白い、欧米の文化と混ざっていない国の言葉が勉強したい、タイに留学したことがあり、元々タイのこと興味があった、初めて行った外国がタイだった、など様々な理由が掲げられている。日本人がタイ語を勉強する理由は、タイ人が日本語を勉強する理由と違い、就職とあまり関係がなく、タイのことに興味・関心が高いためタイ語を勉強したい傾向があるのである。

第4章　結論

本研究ではまず目的と方法について論じた後、理論的な枠組について論じた。具体的には、近代化を進めてきたタイが、グローバル化を背景に世界システムの不平等な構造に包摂される中での日本の文化のタイへの流入についてヘゲモニーの概念を利用して論じた。日本の文化がタイに入り込んで、タイ人がその影響を受けているが、タイの文化は一部のサブカルチャー的なものを除いて日本にあまり入らないのである。

第2章では日本語を学ぶタイ人について、第3章ではタイ語を学ぶ日本人について、実証的な分析を行なった。その結果、タイ人は日本への関心が出発点となって、さらに就職に有利になるために日本語を学ぶ傾向があること、一方日本人の場合は、あまり就職とは関係なくタイへの関心が高いためにタイ語を学ぶという傾向があることが明らかになった。

詳しく見てみると、日本語を学ぶタイ人、タイ語を学ぶ日本人には、以下

の二つのタイプがある。

１．本気でタイ語や日本語を勉強する人……本気でタイ語を勉強する人は、タイに行ってタイを好きになったということが動機になり、タイのことをよく知りたい、タイ語が話せ、また読み書きができるようになりたいと望む人々である。タイ語を学んだ後、タイに留学しに行ったり、タイに旅行に行ったりする人も多い。本気で日本語を勉強する人は、日本に留学したい、日本の企業で働いてみたい、日本の文化（ハイカルチャーもしくはポップカルチャー）が大好きなどの理由で勉強を始める人々である。このグループの人々は、タイ語にせよ日本語にせよ本気で勉強する。

２．本気ではなくタイ語や日本語を勉強する人……本気ではなく、ただ授業の時間割との都合で、タイ語や日本語の授業を取っている。傾向としては単位を取ることが目的で、終わってしまえば習ったことは忘れてしまう人が多い。

タイ語を本気で学ぶ日本人はタイへの関心が強く、就職や留学のために学んでいるが、一方で本気でなく学ぶ人は、授業の都合や単位の取り易さなどのために学んでおり、その場（大学）だけの関心であることも明らかになった。タイ人の場合についても、日本と同様のことが言えると思われる。なぜなら、タイでも専攻としてではなく、選択科目として学ぶ人が多いこと、ソーソートー（泰日経済技術振興協会）やソーノーヨー（元日本留学生協会）などのような日本語学校には、さまざまなコースが用意されていて、少し日本語を学びたいという学生から、日本企業で働きたいという社会人、果ては日本人向けのナイトクラブで働いている女性まで日本語を学びに来ているからである。グローバル化とジャパナイゼーションの進行の中で、今後も日本語学習者の人口は増加する傾向にあると思われる。

このような状態はタイと日本だけではなく、他の事例でも見られる。日本とアメリカを例にとると、日本はファッション、アメリカの歌、映画、漫画

などアメリカの文化の影響を大きく受け、英語はほぼ必須科目といってよい。一方アメリカで日本語を勉強する人は、日本での英語の学習者の人数と比べるとはるかに少ない。日本のことに興味がある、日本の大学に交換留学生として短期で留学して日本のことを好きになった、日本人の友達がいるなどの理由で、日本語を勉強したいと思っている人もいるが、決して日本人の英語学習者を上回ることはない。

日本とアメリカはともに経済的なリーダーシップをもち、他の地域や国々に対してヘゲモニーをもっているといえるが、文化的なヘゲモニーでは大きな差がある。日本が大きくアメリカの文化の影響を受ける一方で、アメリカには日本の文化はあまり入っていかない。政治や経済の面でもアメリカのヘゲモニーは日本のヘゲモニーよりはるかに強大である。このような状況のもとで、日本人が英語を勉強する理由はタイ人が日本語を勉強する理由と似ていると考えられる。しかし、アメリカ人が日本語を勉強する理由は日本のことが好きで日本語を勉強するというものである。それは日本人がタイ語を勉強する理由と変わらない。

日本と他のアジア諸国、例えば、韓国、ベトナム、インドネシア、マレーシアなども日本とタイの関係と同様である。例えば、韓国では最近まで日本の文化は禁止されていたが、日本と経済の関係が深くなっているため日本語を勉強する韓国人も多くなっている。一方、日本に韓国の文化はドラマや食文化を通して入ってきているものの、韓国語の学習熱は韓国人の日本語学習熱に及ばない。他の東南アジア諸国は日本から経済的な影響や援助を受けると同時に、日本の文化の影響も受けるため、タイと同様な状況を示している。

このように分析をすすめると、世界システムの中で中心（日本）—周辺（タイ）の関係にある２つの国の間では、外国語の役割が異なっていることも明らかとなる。言語は、文化という視点では平等なものである。しかし、外国語学習という側面から考えると、中心の言語と周辺の言語は平等ではない。本研究が示したように、タイでは日本語が地位を上昇させる役割を果た

すが、日本ではタイ語はその役割をもたず、趣味的なものにとどまっている。したがって、学習者の数も、タイでの日本語学習者の数が日本でのタイ語学習者の数を大きく上回っているのである。